

日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
ESD/SDGs カリキュラム小委員会（第 25 期第 3 回）小委員会 議事要旨

日 時：2021 年 10 月 24 日（日） 13：00～15:00 オンライン会議
出席者：（小委員会委員）小金澤孝昭、市瀬智紀、及川幸彦、小林亮、鈴木克徳、氷見山幸夫、小田宏信（オブザーバー）新井雅晶、石原靖久、小玉敏也、島田智、棚橋乾、安田昌則、遠藤宏紀、佐々木哲弥、杉野浩二、高倉洋美、嵩倉美帆、廣脇正人

1. 小委員会構成員の確認

10 月 28 日発令で 6 名の新委員（今回はオブザーバーとして出席）を迎えるため、改めて構成員の確認と自己紹介を行った。

2. 今後の小委員会の日程とワークショップの日程

審議の結果、今後の日程を次のように調整することとした。

第 4 回小委員会 11 月 20 日（土）13：00～15:00

分科会ワークショップ 12 月 19 日（日）13：00～16：30

3. 研究報告

次の 6 つの研究報告がなされ、これに基づいて意見交換を行った。

- 1) 小金澤孝昭（宮城教育大学名誉教授）「探究的課題の授業実践」：この報告は、大学での「総合的な学習の時間の指導方法」を紹介した。シラバスの構成は、前半で、学習指導要領の概説と探究的な課題のイメージとしての SDGs 少子高齢化問題、指導計画の作成事例として「平泉学」の授業実践を紹介した。後半は、地域の問題から探究的課題を設定する事例として、登米市西郷小学校の総合的な学習の授業実践、大学生の地域資源を教材にする仙台平野の「いぐねの学校」の実践、最後に持続可能な社会を創るため、税金教育の実践を取り上げた。
- 2) 市瀬智紀（宮城教育大学）「ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムの取り組み」：ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムは、2014 年から 7 年間にわたり、中心となるサテライト地域とその他の地域において SDGs の推進を行ってきた。現在、新学習指導要領と SDGs 関連教科書記述に対応するための個別の教員（Individual）による SDGs カリキュラムと評価方法の開発、SDGs を Whole school で展開する学校全体のカリキュラムと評価方法の開発、SDGs を Whole area で展開する地域のカリキュラムと評価方法の開発について、それぞれの活動に向けた相互エンパワーメントを行い、東北地方における SDGs の達成を実現することを目的に多様な研修を展開している。
- 3) 小田宏信（成蹊大学）「成蹊大学における ESD の取り組み」：学校法人成蹊学園における小学校から大学までが一体となった ESD の推進体制について紹介した上で、

成蹊大学の全学教育カリキュラムにおける「持続社会探究」科目群および経済学部現代経済学科カリキュラムにおける「サステナビリティ研究」科目群を通じたESDの取り組みと課題について説明した。最後に、同学科の「実践ゼミナール」の授業実践例を紹介した。

- 4) 及川幸彦（東京大学海洋教育センター）「ESD/SDGsの最近の動向」：2021年5月にドイツのベルリンにおいて、ESD for 2030のキックオフとして、ユネスコ主催のESD世界会議が開催され、ベルリン宣言が採択された。日本からは①学校教育における組織的・計画的なESD、②マルチステークホルダーとの連携のもとでのESD、③地域に根差し地域の文脈に即したESDの3つの成果が発信された。今後の日本のESDの方向性として、気候変動やそれに伴う災害などの地球規模での課題、また、貧困やジェンダーギャップ等国内の問題、そして国連海洋科学の10年等を踏まえたグローバルなESDの推進が求められている。
- 5) 鈴木克徳（ESD-J）「気候変動教育について」：報告者の気候変動問題へのこれまでの関わりを説明した後、気候変動教育をめぐる最近の国際的動向をレビューし、気候危機に関する国際的関心の高まりに応じて、ユネスコ等を中心に気候変動教育に関する様々な取り組みが進んでいることを説明した。また、国内的にも様々な機関が気候変動教育の改善に取り組み始めているが、相互の連携を強化する必要があること、極めて複雑な気候変動問題について学ぶためには段階に応じた学びの体系の構築が必要なこと、科学者・研究者等と教育者とのより緊密な連携が必要なこと等を指摘した。
- 6) 小林亮（玉川大学）「ESD/SDGsをめぐるユネスコの動向とユネスコスクール（ASPnet）」：ユネスコでは“ESD for 2030”という持続可能な社会創りに向けた新しい枠組みの制定によってSDGs目標達成に向けた教育貢献というESDの位置づけが明確化される一方、「教育の未来」（Futures of Education）という新たなイニシアティブによって教育そのものの根本的な捉え直しが行われている。とくに学習者の社会情動レベルの変容を促すため、ESD/SDGs推進拠点であるユネスコスクール（ASPnet）では「ゴミ削減キャンペーン」（Trash Hack）はじめ世界のユースをつなぐ新たなプロジェクトが次々と開発されている。

以上